

空を飛ぶ観音様 [米原町]

“紫の雲の上よりきますてふ
仏の迎ひ松の尾の寺”

これは当町上丹生に所在する松尾寺に伝わる御詠歌です。歌の文句にも書かれているとおり、松尾寺の本尊は今から1300年程前に、宇宙のかなた空高くより紫の雲に乗って舞い降りられたと伝えられています。現在、その本尊は十一面観音像と聖観音像の二体一仏として、その姿をとどめています。

伝聞によれば当寺が織田信長の襲来を受けた時、この本尊は空中高く飛んで自ら避難されたとのこと。

事の真相はさておき、大変ダイナミックなお話です。この様な由来を持つことから古来より『空中飛行観音』として信仰の対象となっていました。戦時には岐阜県各務原飛行隊員が出撃前に参詣したり、近年では、パイロットやスチュワーデス、さらには海外出張のサラリーマンや新婚旅行のカップルにいたるまで、参詣者が多様化しています。

情報 BOX

◆伊吹山文化資料館では下記の企画展を開催中です。
第19回企画展
『湖北のひかり
—北近江まるごとフォトコンテスト作品展—』
8月20日まで（月・火曜休館）
◎問い合わせ先
伊吹山文化資料館 ☎ (0749) 58-0252

★坂田郡のマスコット紹介①(近江町編)
はにわ館のマスコットたちです。バーチャルミュージアムで大活躍するよ。



世紀末を迎える、増々混沌とした様相を呈する昨今。今日も世界のどこかで戦闘機やミサイルという名の“不幸の使者”が飛び交っています。

同じ飛び交うものなら観音様の様な“しあわせ配達人”であって欲しいものです。

(土井一行)



◆◆編集後記◆◆

今回の『佐加太』は、中山道柏原宿のイベント・醒井宿の保存修理といった、隣合わせた二つの宿場町の報告が中心になりました■新しい試み、刺激いっぱいの学習施設・はにわ館は、2年目を迎えるに積極的な情報発進が続けられています■そして、宇宙の彼方天高くより飛来された松尾寺の観音様■「表紙と開きページは考古学の話題で」と、かつてなんとなく取り決められていたような、そうでないようないいと■「私」はすこし肩身の狭い思いをしています■そんなこんなで、今までにないさまざまな話題を盛り込んで第12号をお手元にお届けいたします■これは担当者が、それぞれの町の事情で埋蔵文化財以外のいろいろな仕事を手がけるようになったからです■まちづくり・企画の仕事などと関わることの多い文化財の保護と活用■これからも、幅広い坂田郡の情報を提供できることでしょう (の)

坂田郡文化財ニュース
佐 加 太 第12号
発 行 平成12年7月22日
編 集 坂田郡社会教育研究会文化財部会
事務局 〒521-0314 滋賀県坂田郡伊吹町春照37
伊吹町教育委員会生涯学習課
TEL. 0749(58)1121
印 刷 立木印刷



佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました。

第12号

2000年7月22日

滋賀県坂田郡社会教育研究会
文化財部会

中山道柏原宿やいと祭 [山東町]

柏原宿は、中山道67宿のうち60番目の宿場で、宿の長さは東西十三町(1.4km)、戸数344軒と、この近辺では大きな宿場であったようです。

宿には、本陣・脇本陣各1軒、旅籠22軒、そして柏原宿名物の“もぐさ”を商った十数軒のもぐさ屋が軒を並べ、なかなか賑わった街道筋だったようです。

そうした中、地元で柏原に往時の宿場の賑わいを。そんな思いが結集して、「やいと祭」が始まりました。「やいと」とはもぐさによるお灸のこと。活気の失われたまちに「やいとを据えて」(お灸をする)、まちを活性化させていくこうと言う地域の過去への熱い思いが、「やいと祭」のネーミングを思い浮かせたのであろう。

5年目となる今年は「人・風・心をつなぐ柏原宿」をテーマに、7月22日(土)・23日(日)の両日に開催されます。前夜祭の22日は、街道筋に模擬店が並び、



▲やいと祭のにぎわい①



▲やいと祭のにぎわい②



坂田郡の遺跡案内

中世城館跡編－その2－

戦国時代の坂田郡は江南と江北の国境にあたり数多くの城が築かれました。一方で、郡内には京極氏や浅井氏の被官であった、国人や地侍たちが居館を構えていました。

京極氏は近江守護佐々木氏の一族で、初代氏信以来北近江六郡を相続し、高清は永正二年（1505）、伊吹町の上平寺に居館を構えました。この館は守護所と呼べる施設で、山城・居館・城下町が一体となるものでした。居館部分は現在でも良好な形で残されており、なかでも御屋形と呼ばれる京極氏の居館にはみごとな武家庭園が500年前に作庭されたままの姿で残されています。

鎌倉時代の初めに近江守護となった佐々木信綱は四人の子息に近江の所領を分配します。長子重綱には坂田郡大原荘が与えられ、大原氏を称しました。この大原氏の居館が山東町本市場に構えられました。現在も二方に土塁と堀が残る典型的な方形館で、地元では大原判官屋敷と呼ばれています。

このほか、近江町には京極氏の根本被官筆頭今井氏の居城新庄（箕浦）城が、米原町には西遷御家人で箕浦荘の地頭となつた土肥氏の居館、殿屋敷などが残されています。（中井均）

醒井宿の問屋場～修理工事現場より～

[米原町]

米原町大字醒井は江戸時代には旧中山道の宿場として盛り、現在も各所にその風情を感じられます。

現在、米原町では醒井の里づくり事業の一環として、歴史的価値の高い建造物を保存・修理し、一般公開していくという事業を実施中です。その中の一つに町指定有形文化財の醒井宿旧問屋場（川口家住宅）があります。

全国的に見ても問屋場の建物が現存するものは非常に少なく、大変貴重な建物です。

ここで言う問屋とは、現在私達が日常的にイメージする問屋とは全く異質なものです。当時の問屋とは、宿場を通行する大名・役人に人足と馬を提供したり、それらの引き継ぎに関する事務を行っていた所を指します。また問屋の件数は1軒だけではなく、中山道の他の宿場を例に取ると、通常2～3軒が交替で事務をこなしていたようです。但し醒井宿の場合は、理由は定かではありませんが、常に6～10軒の問屋が存在していたことが古絵図や古文書から読み取れます。

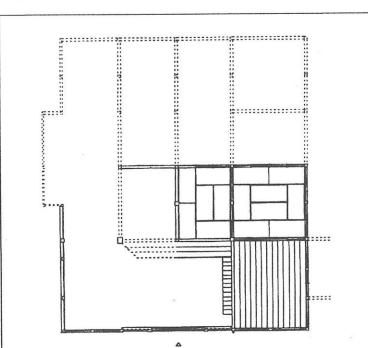
今回の修理工事に伴う調査によって明らかとなったこ

の建物の特色がいくつかあります。まず建築材料としてクリ、ツガ（トガ）、ケヤキなどが多用されていること。これは付近の山から切り出されてきたものと推測されます。また、製材の仕上げにチョウナはつりが随所に見られることから、江戸時代でも古い時期（17世紀後半）の建築であることが判明しました。さらに享和四年（1804）の宿絵図に描かれている間取りでは、現存の建物より背面に三間半伸びており、後世に切断されたことも確認されました。

このように、様々な歴史の断片を提供してくれる問屋場は、平成12年11月12日（日）から装いも新たに皆様の前に姿を表します。

乞う御期待。

（土井一行）



▲問屋復元平面図

ハンズオンとバーチャルミュージアム －近江町はにわ館開館から一年－

[近江町]

地域から発見された出土文化財は、調査報告書が刊行されてしまうと、一部が資料館施設で展示されるものの大半はコンテナケースに収納されたまま、長い年月を過ごしていきます。

「地域の資料をもっと活用しながら、子どもたちの総合的学習などを援助していけないものか」そのような思いで「近江町はにわ館」を開館させ1年が過ぎました。

「実際に物を触って実感させる」ハンズオン手法と、「人間のイメージする力を刺激する」バーチャルリアリティを融合させたものが、常設展示の特徴です。

「実物にさわる」ことを重要視すると同時に、さわったらそれで終わりという実物の限界を超えて、イマジネーションの領域に世界を広げさせることが当館のねらいです。

ここでは展示された考古資料が中心ではなく、利用者である子どもたちが、何を感じ、何を体験できるかを重要視しています。

実物に触れる展示では、破損被害も避けることはでき

ません。しかし、一度はばらばらになって出土した考古資料です。触感体験の中で破損すれば、もう一度復元すれば良いと考えています。むろん2回目の復元は、最初よりも正確なものをめざします。

当館にしかない「バーチャルミュージアム」は、4種類のOAゲームによって町内の考古資料を理解できる仕組みとなっています。利用件数は、初年度で13万件を超えました。

図書館と併設する「入館無料の施設運営」と「年間17本の企画展開催」は、利用者にとって居心地が良く、刺激を与えることのできる文化施設となっています。



▲狐塚5号墳出土の家形埴輪

京極氏家臣団屋敷跡の地形測量

[伊吹町]

近江北郡守護・京極氏に関連する「上平寺城跡遺跡群」について、本紙でたびたび取り上げてきました。今回は、館跡の南西尾根上に位置する家臣団屋敷跡の地形測量の成果を紹介します。上平寺城下への西からの入り口に配置された屋敷群で、小字名を「高殿」といい、「カシュウ屋敷」や「女郎屋敷」などの通称地名が伝承されています。また、『上平寺城絵図』のこの部分には「若宮・加州・多賀・浅見・黒田・西野」など、京極氏の支族や有力被官の名前が記されています。地形測量の結果、削平地はもともと約60m四方の屋敷地で三方を土塁で囲まれていることがわかりました。またエは、約70×60mを測る最大の屋敷跡です。地形図から、それぞれの屋敷地が絵図のどの部分に該当するかをほぼ推定することができます。若宮屋敷はイの北半分またはエ、加州屋敷はイの南半分またはエ、多賀屋敷はエまたはキ、浅見屋敷はウ、黒田屋敷はオ、西野屋敷はクと考えられます。

さて、それぞれの家臣団の概略は以下の通りです。
若宮氏：坂田郡飯（近江町）を居城とした有力被官。
加州氏：坂田郡長岡（山東町）を本拠とした京極氏一門。

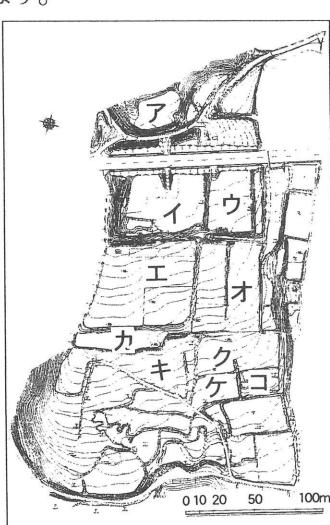
多賀氏：浅井郡を本拠にした有力被官。

浅見氏：浅井郡尾上（湖北町）を本拠にした被官。

黒田氏：坂田郡本郷（山東町）を本拠にした京極一門。
西野氏：伊香郡西野（高月町）を本拠にした被官。

北近江各地に拠点を持つ有力者に対し上平寺に屋敷を与えていたことがわかります。

上平寺城は、16世紀前半の京極高清・高広親子の居城と考えますが、若宮・多賀など初期の段階の家臣が描かれていることや、高清政権後半に執権的立場にあった上坂氏や高広段階の奉公人山田氏の屋敷伝承地などが絵図の記載がないことから、高清時代でも初期の家臣団屋敷を推定することも可能です。



▲家臣団屋敷跡 平面図